

川崎市総合防災訓練（第1回麻生区総合防災訓練）

【日時】 令和6年9月1日（日） 9時00分～12時00分

【場所】 麻生水処理センター・区内小学校他



【川崎市総合防災訓練 会場周辺地図】

柿生小学校

麻生水処理センター



▲柿生小学校 ~ ▲麻生水処理センター間
車 4分 (1.4km)
徒歩 14分 (1.1km)

【目的】

川崎市総合防災訓練（第1回麻生区総合防災訓練）は、地域住民、市・区役所以外の防災関係機関や医療・福祉団体等が統合された訓練であり、注目度の高い訓練となる。

そのため、地域全体への発信効果が高く、より**実践的な内容となる本訓練をきっかけに**、麻生区民の防災意識の向上（自助）、地域の災害対応力（共助）の向上、関係機関の連携強化（公助）を図り、区内で**自主的な避難所での運営訓練が広がっていくことを目指すものとする。**

○川崎市総合防災訓練
各関係機関・団体との連携強化

○麻生区総合防災訓練
「自助」と「共助」の意識向上による地域
防災力強化及び各機関との連携強化

【麻生区の状況】

・自然的条件

- ①高台と低地、丘陵と谷戸といった地形の変化が大きい。
- ②川崎市内においては揺れにくい地域である。
- ③急傾斜地多い。土砂災害警戒区域**304**箇所（区） / **750**箇所（市）。

・社会的条件

- ①人口に占める高齢化率**24.9%**（長寿日本一）。
- ②福祉施設が多い。
（特養、北部療育センター、麻生養護学校、北部リハビリセンター等）
- ③女性が活躍する市民活動がある。
（まごころキッチン、LINKmama、ペットとぼうさい等々）
- ④「避難所運営訓練」実施数が少ない。（R5実績：**2**箇所 / **25**箇所）

能登半島地震での状況（災害派遣職員の見聞から） R6. 1月中旬派遣

【被害状況】

- ・ 瓦屋根の古い家屋の倒壊が圧倒的に多い。

【復旧作業】

- ・ 発災後、道路啓開が最優先に行われる。
- ・ 発災後3日程度は公助が期待できない。
- ・ 一週間程度で支援メニューが増える。

【避難所】

- ・ 公助が来るまで、安否確認や救出は地域住民が対応するしかない。
- ・ 避難所の運営は、地域住民と公助が役割を分担して行う。
- ・ 避難所では利用者全員が自分事として動く。
- ・ 避難所は様々な避難者が利用。
- ・ 衛生面での充実は避難所生活の質に直結。

【川崎市総合防災訓練に盛り込む視点】

○発災初動の救助活動

→公助による救助活動には限界がある。発災初動の自主防災組織の活躍が人命救助に直結。

○発災時のトイレ問題

→トイレは発災後すぐにでも必要になることが、過去の震災からも明らか。感染症予防にも繋がるトイレの重要性を強調し伝える。

○女性目線を取り入れた避難所運営

→避難所における女性目線での訓練参加。女性が女性に相談できる環境づくり。

○ペットの同行避難

→発災直後のペットの同行避難を実現するためには、事前の準備・訓練を実施し共通の理解を広げていくことが重要。

○要配慮者への対応

→要配慮者等、特別な配慮が必要な事項について、関係団体に訓練参加してもらい、連携の強化を図る。

○夏場の熱中症対策

→避難所で熱中症が発生する可能性に備えて、学校との連携や共通理解を深める訓練の実施。

効果

安全・安心まちづくりの推進

○自助の意識向上

在宅避難のための備蓄が強化される。

○共助の災害対応力強化

人・物を動かすことに重点を置く訓練を実施し、頭を働かせ状況に応じた行動を求めることで、実災害時の対応力が向上する。

住民間同士の協働、協調意識が醸成される。

○行政・地域・関係機関との連携強化

本番想定に近い訓練によるイメージの共有、課題解決能力の強化される。

定められたルールや手順の再確認、見直しの実施が行われる。

【会場別の訓練内容】

- ・ 自主防災組織初動訓練
- ・ 避難所開設訓練
- ・ 避難所運営訓練
- ・ 災害時の医療・福祉対応

会場：柿生小学校

- ・ 救出救助訓練
- ・ ライフライン復旧訓練

会場：麻生水処理センター

※両会場の特徴に合わせた啓発ブースの展開を実施

【自主防災組織初動訓練（柿生小学校校庭にて実施予定）】

★地域防災力の強化をメインとし、発災～避難所開設の訓練を行う。自主防災組織は数団体の協力を想定。

発災

- シェイクアウト訓練で安全確保行動を取る
- 情報収集しながら、自主防災組織本部へ集合

自主防 本部立上げ

- 各自主防組織、地域住民が集まり、自主防災組織本部立上げ
- 近隣の状況把握等の情報共有や集合したメンバーの役割分担を行う

情報 収集

- 地域の安全確認及び地域住民（要援護者含む）の安否確認
- 資器材（無線等）を活用し、災害に関する情報の収集

救助

- 資器材（担架、ジャッキ等）を活用した救助訓練、初期消火。AEDや担架を使用し、けが人、要援護者を必要に応じて、安全な場所へ搬送。
- 自宅の安全確認ができた人については、在宅避難等呼びかける。

避難所 開設

- （次ページ参照）

【避難所開設訓練】

○避難所開設訓練のねらい

- ・ 避難所の開設、防災資機材等の確認、操作を通じ、実際に地域住民が現地・現物を使って手を動かすことで手順を習熟してもらう。
- ・ 本訓練をきっかけに他の避難所についても、年度内に開設訓練等の実施を促していく。

○実施概要

◇開設訓練想定メニュー

避難所の解錠 → 建物の安全確認 → 資器材の運び出し → 避難所受付設置 →
電話開通作業 → 麻生区本部へ連絡

【避難所運営訓練】

○避難所運営訓練のねらい

避難所に集まる多様な主体による統合的な避難所運営訓練を経験することで、リアルな避難所のイメージを共有し、実際の運営に活かしていく。

○想定訓練

物資受入、要援護者、外国人対応、手話通訳対応、女性目線の対応、ペット対応、医師会往診、福祉避難所
障害者対応、炊き出し

過去の地震での教訓を生かした訓練

→暖房器具、交通の不便さ、地域の結束力の有無、衛生面（トイレ）

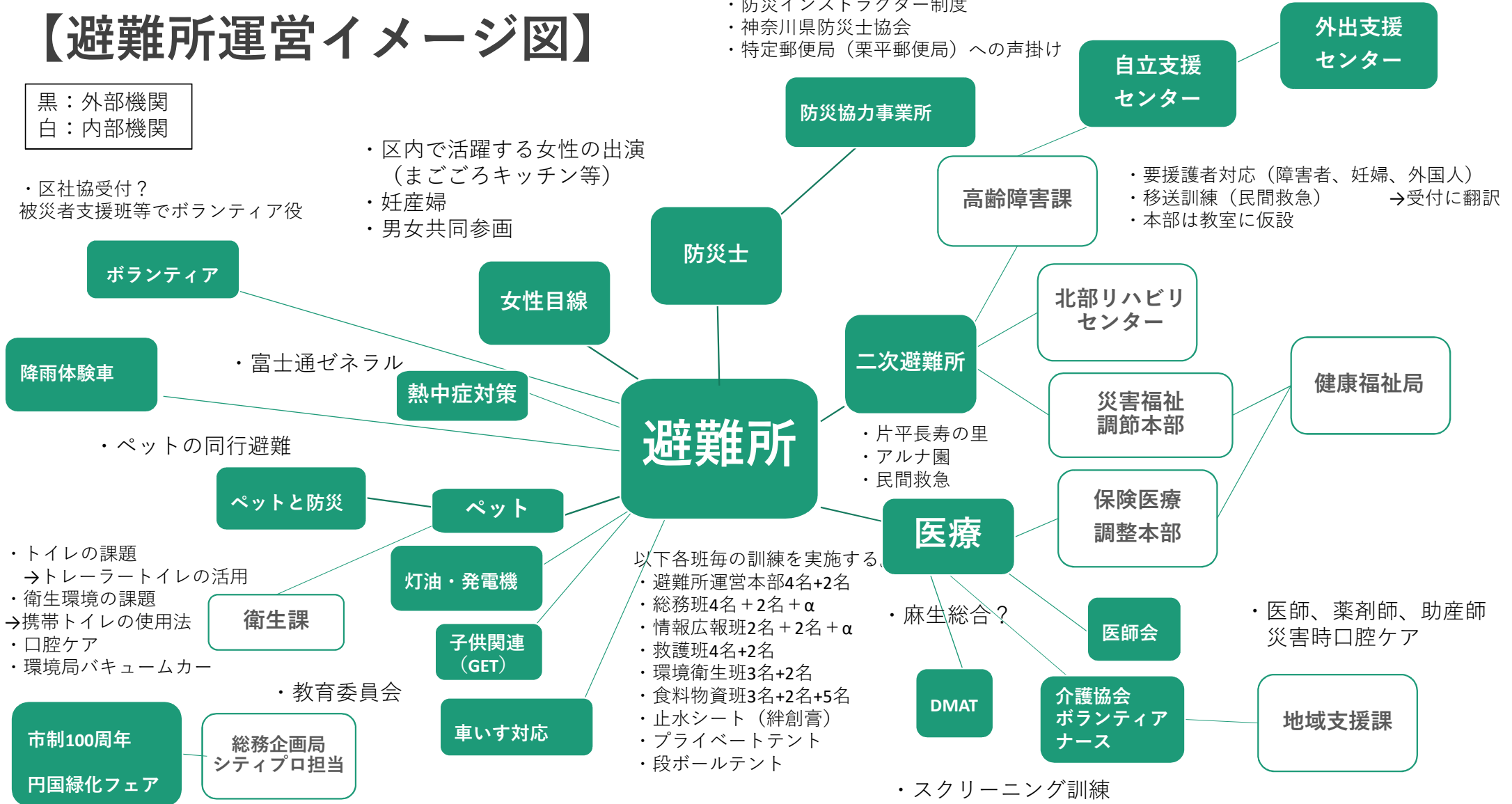
【避難所運営イメージ図】

黒：外部機関
白：内部機関

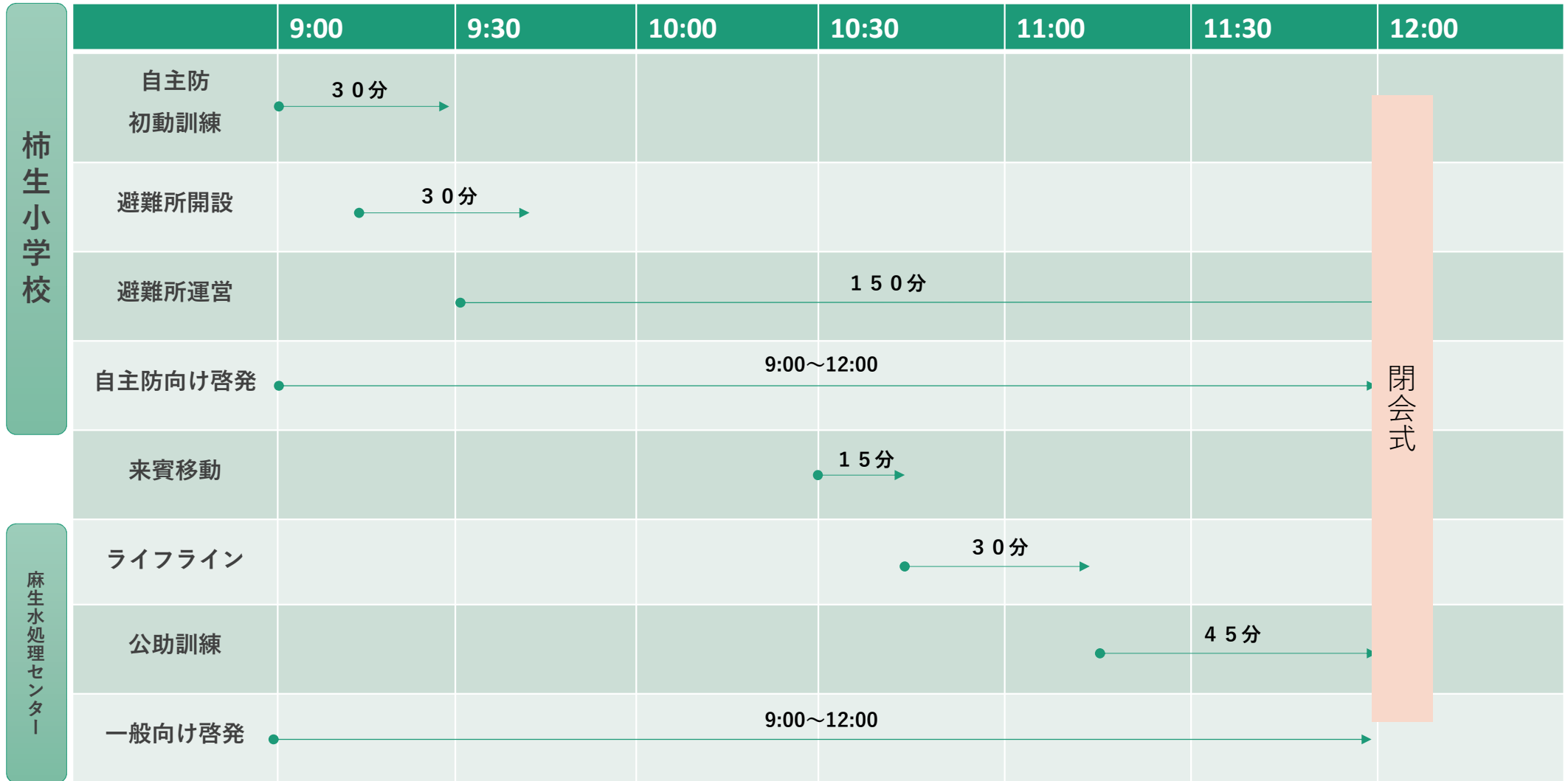
・区社協受付？
被災者支援班等でボランティア役

・区内で活躍する女性の出演
(まごごろキッチン等)
・妊産婦
・男女共同参画

・防災インストラクター制度
・神奈川県防災士協会
・特定郵便局(栗平郵便局)への声掛け



【川崎市総合防災訓練 タイムスケジュール案】



自主防麻生防災メール (JAM)

Jishubo Asao Bosai Mail

への登録をお願いします

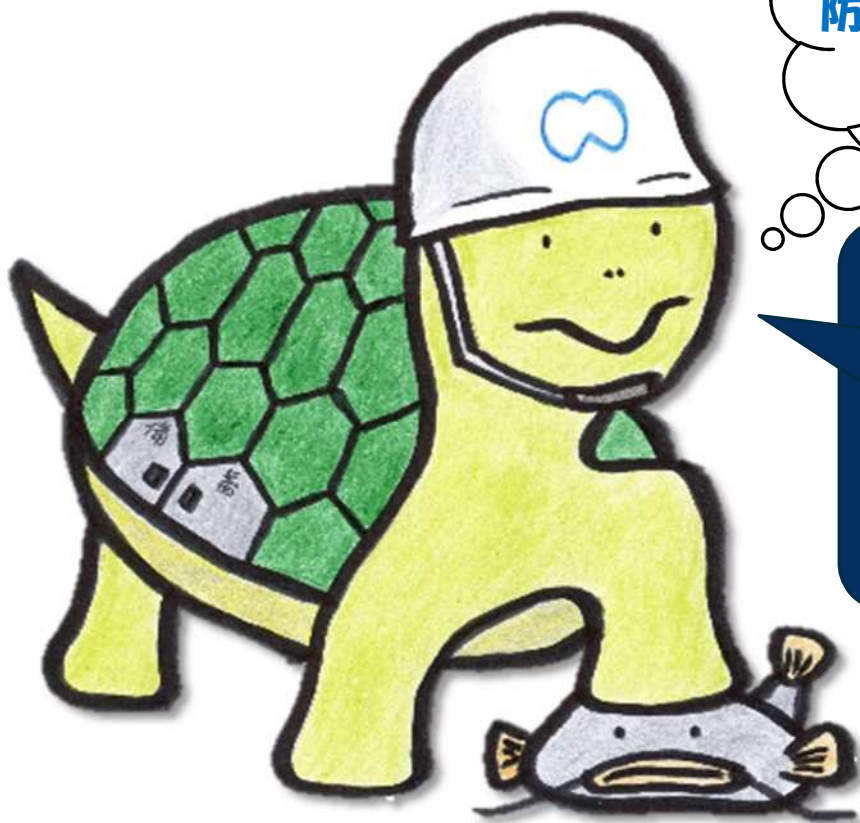
～自主防麻生防災メール (JAM) とは～

令和3年度から新たに開始した自主防災組織向けメール配信システム

- ✦ 電話連絡していた避難所・緊急避難場所開設の連絡をメールに
→ 自主防本部長は都合のいい時間帯に連絡を確認することが可能に
→ 素早く、確実に情報を受け取ることができる
- ✦ 本部長以外のメンバーも登録可能
→ 登録した方だけでなく、誰でも開設連絡が確認可能に
- ✦ 避難者数などの配信により、その場で状況を確認できる

そのほかにも
知って得する防災情報や
防災イベントの開催情報等
配信予定!

登録方法は
裏面を
ご覧ください



～登録方法～

1. 麻生区役所危機管理担当組織メールに以下を送信。

メール送付先：73kikika@city.kawasaki.jp

件名：自主防麻生防災メールの登録

内容：① 所属している自主防災組織名

② 氏名

③ 登録するメールアドレス

④ 役職（「本部長」又は「本部長以外」）

2. 危機管理担当で送信された情報をシステムに登録
3. 避難所・緊急避難場所開設等のタイミングで、登録されたアドレスにメールを送付

※ 1 自主防につき何名でも登録可能です。

※ 配信メールは「j-kawasaki@sg-p.jp」のアドレスから送信します。

迷惑メール対策サービスを利用している場合、配信メールが届かないことがあります。

「j-kawasaki@sg-p.jp」からのメールが受信できるよう設定をお願いします。詳しくは、

今後避難所・緊急避難場所の開設連絡はメールに移行します。

各自主防災組織からお一人は登録をしていただきますようお願いいたします。

また、会議等の延期・中止連絡の際、本部長宛てにメールを活用した連絡体制を構築したいと考えています。そのため、今年度、新たに本部長になられた方は、積極的な登録をお願いします。

～お問い合わせ～

麻生区役所 危機管理担当 今泉

(電話) 044-965-5196

(メール) 73kikika@city.kawasaki.jp